

## 「ブラジル国強靱な街作りのための 土砂災害構造物対策能力向上プロジェクト」が 順調に進捗

～2022年にはブラジルで「SABO」という言葉が流行するかも!?～

前号でお知らせした標記プロジェクトについては、2021年7月にJICA専門家として国土交通省砂防部から越智英人氏が、プロジェクト実施機関である地域開発省に着任されました。越智専門家着任後、12時間の時差をものともせず毎週実施しているオンライン会議では、2021年11月現在、プロジェクトの成果の一つである土石流対策構造物の設計マニュアル案についての説明・協議が順調に進んでいます。



テレゾポリス市庁でSABOプロジェクトの説明を行う  
JICA越智英人専門家

また、土石流対策構造物である不透過型砂防ダムと透過型砂防ダムをブラジルの予算で建設するパイロットプロジェクトについては、それぞれリオ・デ・ジャネイロ州のノバ・フリブルゴ（Nova Friburgo）市とテレゾポリス（Teresópolis）市で行うことが合意され、両市での土砂災害のおそれのある溪流の抽出、抽出溪流のリスク評価及びパイロットサイトとしての適性評価が行われています。

ところでこのプロジェクト名は長いと思いませんか？ブラジル側もそう思ったようで、公式の場や文書以外では「SABOプロジェクト」という略称を使用することになりました。ブラジル側にはこのプロジェクトによる砂防の認知度を高めたいとの思惑もあるようです。

また、ブラジルには「砂防」ダムがなく、ダム＝貯水ダムとなってしまうので、砂防ダムは砂防バリアー“Barreira de Sabo”と呼ぶことになりました。

2022年早々には、当センターを含む共同企業体コンサルタントチームがブラジルに赴き、現地での指導、調査を開始する予定ですが、世界的な感染拡大が危惧される新型コロナウイルスの変異株の出現を受け、JICAやブラジル地域開発省と十分対応を協議しながら臨みたいと思います。